

九重火山の火山活動について (1998年9月~1999年1月)*

Recent Volcanic Activity of Kuju Volcano (September,1998-January,1999)

京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設

火山研究センター

Aso Volcanological Laboratory, Kyoto University

九重火山通称硫黄山の噴火活動が1995年10月に始まって3年以上が経過した。この間、火山灰の噴出は1995年12月の再噴火、1996年1月と3月に観測されたにすぎない。その後今日まで常時勢いよく水蒸気の噴出が長期間継続している。

新火口群からの噴気活動は、若干の盛衰があるものの、依然大きな鳴動を伴って継続している。火口の活動状況はbとc火口群およびd火口に限定され、やや勢力が衰えた模様であるが、依然鳴動が強烈である。

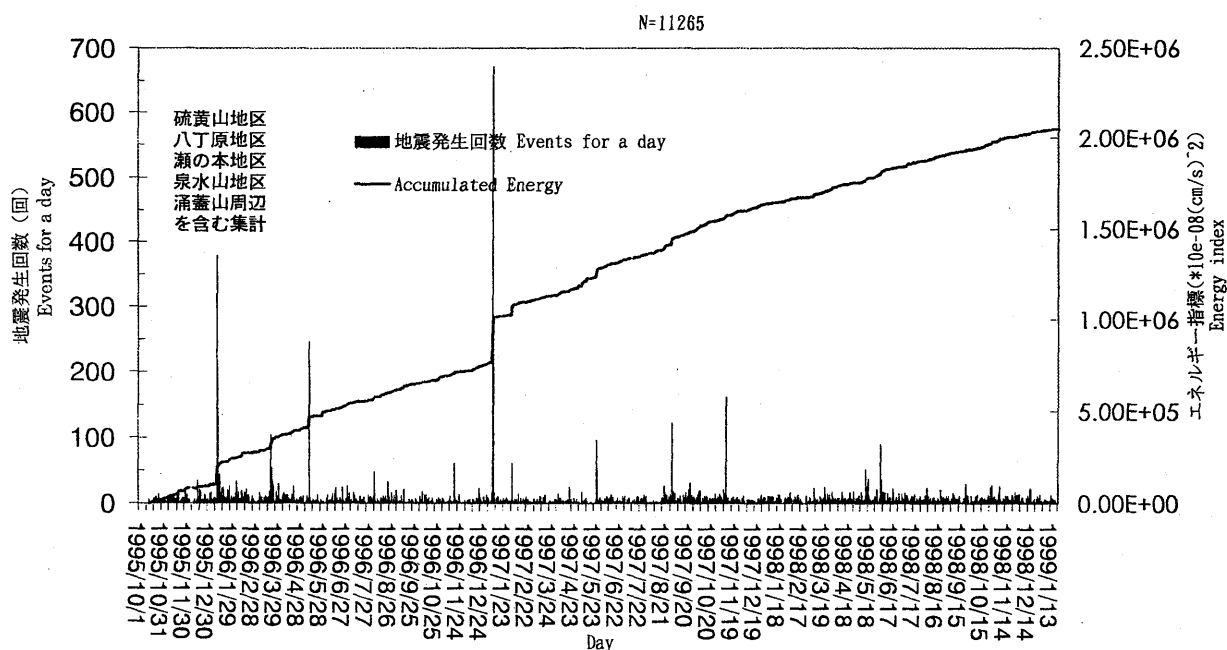
地震活動については、1998年7月頃の瀬の本・池山水源方面（九重火山から南西へ約6km）での群発活動発生以後、九重火山硫黄山地区もその北西地域をはじめとする周辺地域でも顕著な活動が見られなかった（第1図参照）。

地盤変動における星生山山頂を望む辺長測量では、穏やかな収縮が依然一様に継続している。すでに諏我守-星生山間（辺長1110m）で40cm、硫黄山-星生山間（867m）で35cmの収縮が計測されている（第2図参照）。

九重火山の活動はこのようにほぼ同じような状態が長期間継続している。従って、今後、これらの傾向が直ちに止まるとは考えられない。

九重火山とその周辺の累積地震エネルギー

Released seismic energy in and around Kuju. S-P time <2.0s



第1-1図 九重火山とその周辺地域の地震活動
(日別発生頻度および累積エネルギー)

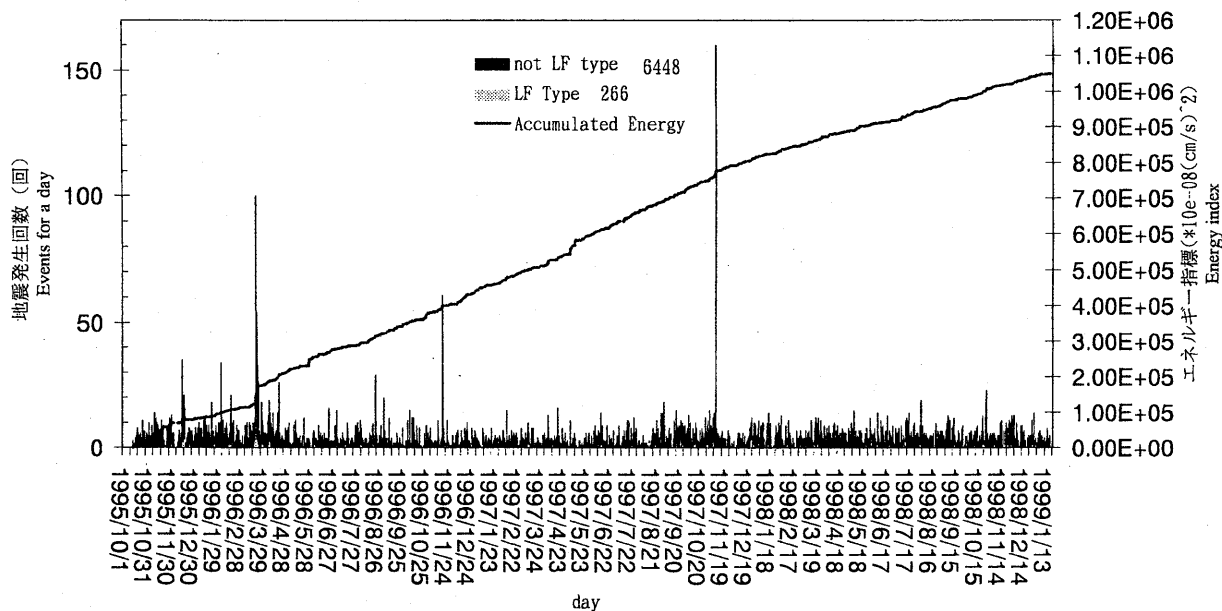
Fig. 1-1 Seismicity around Kuju Volcano.

* Received 14 Mar., 1999

九重火山 硫黄山地区の累積地震エネルギー

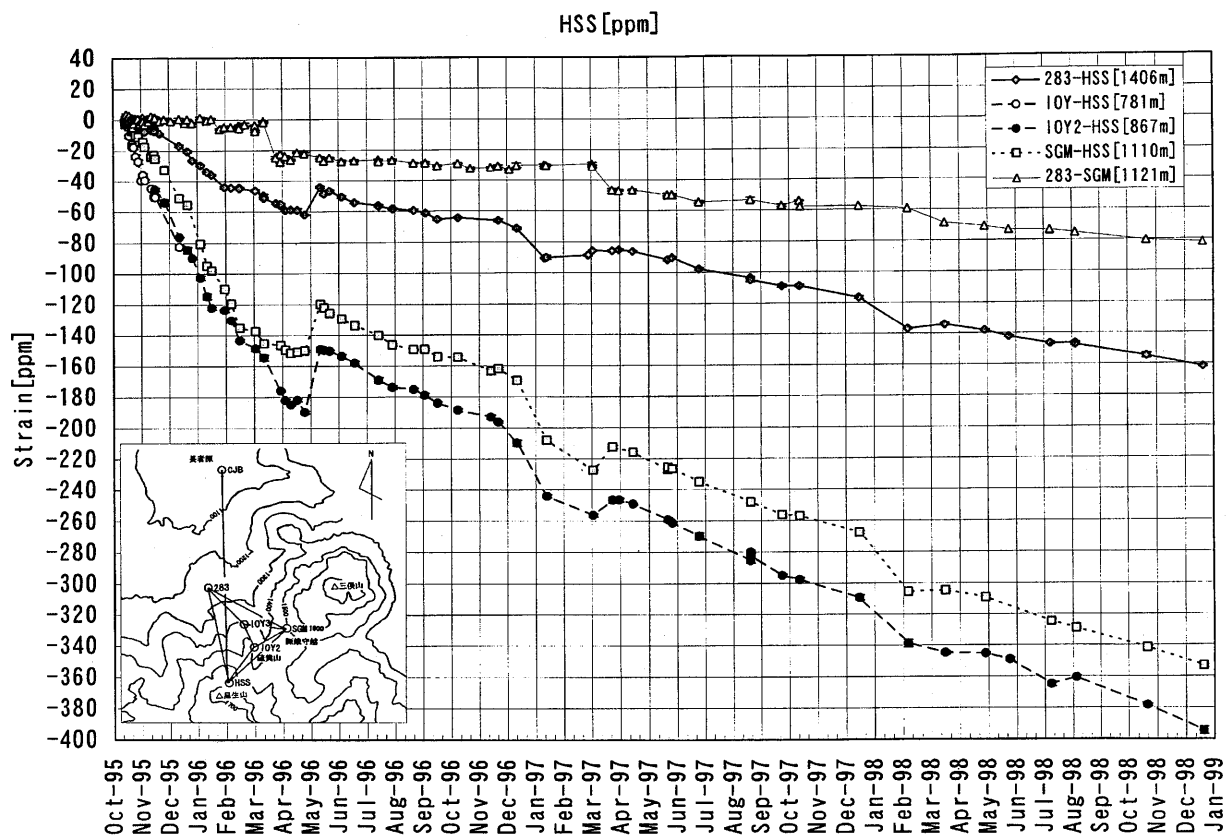
Released seismic energy at Iwo-yama, Kuju. S-P time <0.6s

N=6715



第1-2図 九重火山，硫黄山地域の地震活動
(日別発生頻度および累積エネルギー)

Fig. 1-2 Seismicity in Kuju Volcano.



第2図 光波測量による斜距離変化 (測線283-HSS, SGM-HSS, 283-SGMおよびIOY-HSS)。

Fig. 2 Changes of Distances at Iwo-yama Area (baseline 283-HSS, SGM-HSS, 283-SGM and IOY-HSS).